

帯工生が建設DX学ぶ 平田建設が現場見学会

【土幌・中札内】平田建設（土幌町、長谷川雅毅社長）は18日、中札内村で進める国営かんがい排水事業



建設業の仕事について
若手社員から学ぶ帯広
工業高生

現場で、帯広工業高校環境土木科の2年生を対象に、「i-Construction（アイ・コンストラクション）・建設DX現場見学会」を開いた。生徒36人が参加し、座学や現場での見学と体験を通じて、建設業界の課題や現在進む建設DXについて理解を深めた。

アイ・コンストラクションは建設現場にICT（情報通信技術）を導入することで業務を効率化し、生産

性の向上を図る取り組み。同社は建設現場でのICT活用を高校生に知ってもらう目的で見学会を開いており、今年で5回目。

見学場所は中札内村市街から車で10分ほどの「芽室川西地区上清川第2幹線用水路上流工区工事現場」。午前中は中札内文化創造センターで、現場概要と、ICTを活用した測量や施工について説明。生徒から「今の技術を使い始めたのはいつか」などの質問が出ていた。

入社1、2年目の若手社員3人との座談会も行い、建設業を選んだきっかけや

仕事での成長などについて語り合った。若手社員のうち2人が同科の卒業生でもあり、生徒たちは熱心に耳を傾けた。その後は、建設機械のVR体験やシミュレーターでバックホーの操作を体験した。

午後はバスで現場に移動し、最新の建設機械を間近で見学。4班に分かれて杭（くい）ナビによる測量やドローン操作も体験した。新井遼人さん（16）は「ICTを活用した仕事がどういうものかイメージできた」と学びの有意義さを強調した。

（斉藤さゆり通信員）